文部科学省
地(知)の拠点

平成26年度
地(知)の拠点整備事業報告書

(COC：center of community)

―看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業―

大分県立看護科学大学

Contents

ご挨拶

大分県立看護科学大学学長・理事長…… 1

大分県立看護科学大学　看護研究交流センター長…… 2

Ⅰ.大分県立看護科学大学地（知）の拠点 （COC）整備事業の概要

1　大分県立看護科学大学の取り組み…… 3

2　看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業…… 4

3　学部教育のカリキュラム改革-より地域へ貢献する大学へ- …… 5

4　地（知）の拠点 （COC）整備事業の評価 …… 6

Ⅱ.大分県立看護科学大学地（知）の拠点（COC）整備事業の推進組織体制

1　大分県立看護科学大学COC事業推進組織体制 …… 7

2　COC推進プロジェクト学内組織体制図 …… 9

3　大分県立看護科学大学COC事業推進会議関係者 …… 10

Ⅲ.大分県立看護科学大学地（知）の拠点（COC）整備事業の実施報告

1　平成26年度事業経過報告 …… 11

2　平成26年度事業推進会議 …… 13

3　平成26年度学内検討会 …… 16

4　平成26年度自由科目「予防的家庭訪問実習」

1）訪問実習の目標 …… 18

2）予防的家庭訪問実習学生オリエンテーション …… 18

3）概要 …… 18

4）平成26年度予防的家庭訪問実習実施状況 …… 19

5）平成26年度予防的家庭訪問実習訪問実施状況 …… 20

6）平成26年度予防的家庭訪問実習協力者の感想 …… 29

5　コロラド大学名誉教授Kathy Magilvy博士

地（知）の拠点（COC）整備事業　コンサルテーション …… 30

6　平成26年度事業報告会（地域交流会）

1）事業報告会（地域交流会）の目的 …… 32

2）事業報告会（地域交流会）学生オリエンテーション …… 32

3）事業報告会（地域交流会） …… 33

7　学生の予防的家庭訪問実習を通しての学びと感想…… 39

8　平成27年度予防的家庭訪問実習協力者募集のための活動報告 …… 41

資料

- 大分県立看護科学大学地（知）の拠点（COC）整備事業推進会議設置要綱 …… 43
- 平成26年度地（知）の拠点（COC）整備事業推進会議委員名簿 …… 44
- 大分県立看護科学大学地（知）の拠点（COC）整備事業推進会議幹事会運営要領 …… 45
- 平成26年度地（知）の拠点（COC）整備事業幹事会メンバー …… 45

ご挨拶

地（知）の拠点（COC）整備事業における「予防的家庭訪問実習」
― 試行から本格実施に向けて ―

本学は、平成25年度の文部科学省「地（知）の拠点（COC）整備事業」に、「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」というテーマで採択されました。

本事業は、学生たちが大学４年間を通して継続的・定期的に家庭訪問実習を行い、高齢者の健康や生活などを把握し、同時に、地域の高齢者ができるだけ自立して自宅で暮らすことができるように考えながら予防活動を行うことによって、地域の活性化にも貢献することを目的としています。

平成26年度は本事業の２年目にあたります。前年度に２名の協力者に訪問した経験を踏まえ、本年度は、８名のご協力者を得て、学生33名が継続的に家庭訪問実習を行いました。一年のまとめとして地域の皆様の前で事業報告会も２回開催しました。

家庭訪問実習や事業報告会などを通して、協力者や地域の方々からは多くのことを学ばせて頂きました。心より感謝申し上げます。平成26年度には、同時に、学部のカリキュラムも改定して、各学年で正規の授業に位置づけるという準備も進めました。

地域の方々や自治会、事業推進委員の皆様からのご意見を踏まえ、更なるご協力を得て、いよいよ平成27年度からは全学部生320名による家庭訪問実習が始まります。１年生から４年生のすべての学生が、異なる学年で構成されたグループに分かれ、80名の協力者のもとに家庭訪問実習に伺います。学内では、人間科学系と看護学系の教員がペアになり、各々２-３グループを受け持って、学生の指導にあたります。全学を挙げて、この事業に取り組むわけです。

大学は、地域の皆様に支えられて日々成長していくことが出来ます。地元の大分市野津原地区と富士見が丘団地、野津原地区社会福祉協議会、野津原地区自治委員連絡協議会、富士見が丘公民館、富士見が丘連合自治会、また、両地区の民生児童委員協議会、地域包括支援センター、更に大分市、大分県、大分郡市医師会、大分県看護協会、大分県国民健康保険団体連合会等のご支援で、無事に平成26年度の事業を終了し、更に次に向かうことが出来ることを感謝しています。

本事業が地域の活性化につながり、一つのモデルとして、大分から全国に発信していけるよう努力して参りたいと存じます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年３月

大分県立看護科学大学
学長・理事長　**村嶋　幸代**

ご挨拶

予防的家庭訪問実習に向けて準備完了

看護研究交流センターは、平成25年度に組織を再編してから26年度は２年目を迎えました。組織の再編によってできた５つの部門（地域交流部門、NP教育推進部門、継続教育部門、学術ジャーナル部門、国際交流・留学生部門）の中の地域交流部門が中心となって取り組んでいるのは文部科学省の地（知）の拠点事業（COC）です。26年度は５年間の事業の２年目となります。

「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」の２年目は学生が「予防的家庭訪問実習」をカリキュラムの中で本格的に行うために必要な最終的な準備の年となりました。１年生から４年生までの学生全員が取り組むカリキュラムですので、少人数で家庭訪問を行うには学生は１年生から４年生の４名が一組となり、地域の対象者の方を家庭訪問する計画です。そのため、80組の学生がグループとなって地域を訪問することになりますので、80名の対象者の方の協力が必要となります。

大分市野津原地区と富士見が丘団地の２つの地域の温かい協力が期待できるとはいえ、実際に80名の対象者の方の協力を得ることは容易なことではありません。一人一人訪問し、COC事業の目的と内容を丁寧に説明し協力をお願いしてきた看護研究交流センターの教職員の熱意と誠意が地域の方に通じたからでもあります。本当にありがとうございました。

こうやって、26年度は27年度からの本格実施に向けた準備が完了しました。準備の中では、「予防的家庭訪問実習」を担当することになる全員の教員と学生に対するオリエンテーションや説明会が行われてきました。全学的な取り組みとして、日頃、実習とは縁のない人間科学系の教員も含めて全員の教員が「予防的家庭訪問実習」に関わるようになります。この点からも、「予防的家庭訪問実習」は、従来からある「看護実習」の延長ではなく、地域と大学とが結びつきをより強くした恒常的な取り組みに発展していくことが期待されている大学あげての取り組みであることがおわかりいただけることと思います。大きな総合大学では決してできない取り組みが大分県立看護科学大学の特色を生かして実現できるところまできました。

これまでの準備の過程には27年度からの本格実習で起こるかもしれない些細であっても向き合う必要のある問題に対処することも含まれ、事業関係者を含めた大学の教職員が一丸となって取り組んできたことで準備完了に至ることができたことに感謝しております。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。26年度３月において、COCの事業が果たす役割、すなわち、大学での人材育成としての教育と地域貢献の２つの役割を果たすことができる準備が整ったことをここにお知らせいたします。

最後に、この事業を中心的に活動していただいた、野津原地区および富士見が丘地区の自治会をはじめとするCOC事業推進会議の関係の皆様に心から感謝申し上げます。また、COC事業に参加していただく予定の地域の方の協力に心からお礼を申し上げます。

平成27年３月

大分県立看護科学大学
看護研究交流センター長　**甲斐　倫明**

I

大分県立看護科学大学
地（知）の拠点（COC）
整備事業の概要

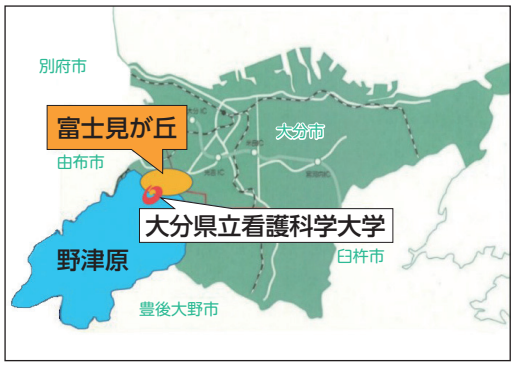
地（知）の拠点（COC）整備事業報告書

大分県立看護科学大学

1 大分県立看護科学大学の取り組み

地域の課題

本学は、北東に富士見が丘団地、南西に旧野津原町が広がっており、両地区とも「高齢化率」が高く、独居高齢者や老夫婦の増加という現代の日本が直面する共通の課題を抱えている。



野津原地区

面積：93.75㎢　人口：4,675人

東西12.5㎞南北7.5㎞の広大な土地に4,675人が住んでいる。高齢化率は平成26年３月には40.1％と高い。地域で支えあう習慣はあるが、若者が激減しており、これまで高齢者を支えてきた人たちも、高齢者になりつつある。また、山間部ほど高齢化が進み、集落が小規模で分散している。

公共の交通機関がほとんどないため、病院、スーパー、郵便局等へのアクセスが自力では難しい。人口の減少が深刻で、高齢者の孤立化が課題となっている。

富士見が丘団地

面積：2.6㎢　人口：7,576人

昭和40年代に開発された一戸建て住宅からなる東西2.0㎞、南北1.3㎞にわたる郊外型団地である。開発後、約40年を経過するため高齢化が著しく、かつ、その進行が早い。人口7,576人のうち65歳以上の占める割合は、平成26年３月には34.0％となり、毎年1.1～2.3％高齢化が進んでいる。

高齢者の独り暮らし、高齢夫婦が多く、３つある自治会は、連合自治会として活動し、介護予防プログラムも運営されて活発である。一方で地形的に坂と階段が多く、高齢者が外出しにくいため、公民館でサロンが開かれても、虚弱な高齢者が徒歩で参加するのは難しい状況である。介護予防のイベントを行っても決まった人しか集まらないため、自宅に閉じこもっている人にどのようにアプローチをするかが課題となっている。

共通の課題

孤立しがちな高齢者への対策

▼

キメ細かいアウトリーチが必要

2 看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業

大学が地域にでかける意義

大学生が予防的家庭訪問実習を行うことにより、地域高齢者の状況が明らかになり、より深く地域の現状がわかる。本学の教育研究活動を通して地域の問題を吸い上げ、明確にし、地域全体と本学でその課題に対応する方策を考える。地域関係者と会議や報告会を定期的に実施することにより、事業を円滑に進めると同時に、地域の課題を一緒に考える共通基盤を創る。

事業内容

学生たちが大学４年間を通して継続的に予防的家庭訪問を行い、高齢者の健康状態や生活実態などを把握し、心身の機能低下予防を行うことによって、地域の高齢者ができるだけ自立して自宅で暮らすことができ、ひいては地域の再生・活性化に寄与することを目的とする。

❶高齢化の進む地域で、学生が予防的家庭訪問実習（看護実習として新設）を行う。孤立化しがちな75歳以上の高齢者に対し、卒業までの４年間に定期的かつ継続的に家庭訪問を実施し、高齢者の機能低下を予防する。

❷アウトリーチにより、早期に把握された高齢者の問題は、学生が地域の健康課題として集約し、公民館等で健康教育等を行う。また、早期に対応が必要な場合は、当該高齢者の了解を得て、然るべき機関につなげ、解決を図る。

❸定期的に行政や自治会、高齢者クラブ等の組織や団体と話し合う場を設け（事業報告会）、一緒に地域の課題を解決していく（まちづくり）。

地域の問題

❶加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化
❷認知症および孤独死の増加
❸孤立した高齢者を見守る自治会役員等の負担感
❹アウトリーチするマンパワーの不足

地域再生・活性化
元気なまちづくり

看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業

事業推進会議

自治会、地区民生児童委員協議会、地区社会福祉協議会、郡市医師会、看護協会、地域包括支援センター、国保連合会、大分市、大分県、看護科学大学
- 事業計画：目標の評価・検討
- 家庭訪問、健康教室、事業報告会等で得られた情報をもとに、**地域全体の活性化対策を検討・実施**

予防的家庭訪問

学生
- 高齢者を理解し、健康状態把握 ４年間（３～４回／年）
- 予防の計画と実践指導者（教員等）
- 家庭訪問技術と知識の指導
- 高齢者支援の指導

健康教室

学生
- 家庭訪問で見出された問題に対して、学生グループが合同で健康教室やまちの保健室を開催

参加者
- 家庭訪問高齢者・地域住民・自治会・高齢者クラブ等

事業報告会

学生
- 家庭訪問実習の成果報告
- 高齢者への支援対策を地区ぐるみで検討・実施
- 地域と協同でまちの保健室を運営

参加者
（野津原・富士見が丘地区）高齢者、自治会、関係者等

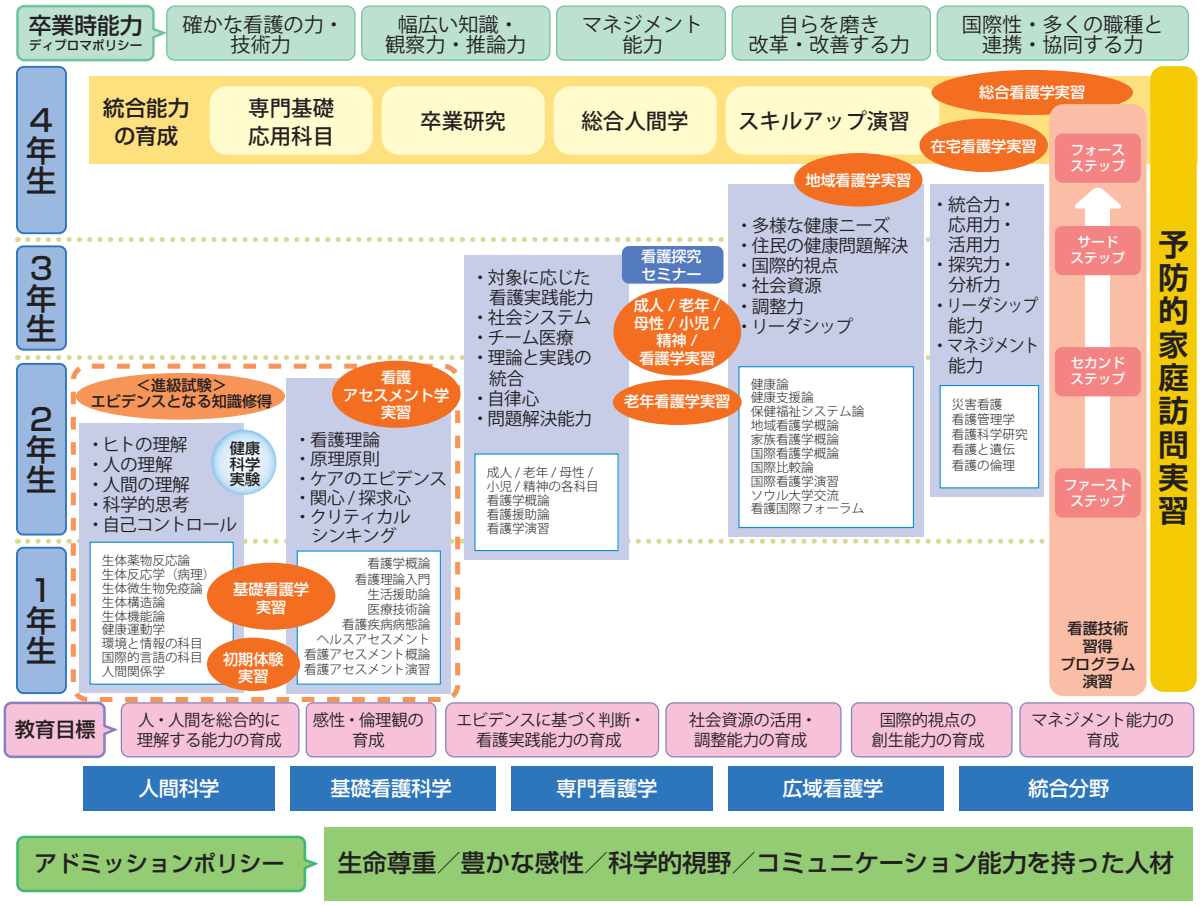
大分県立看護科学大学

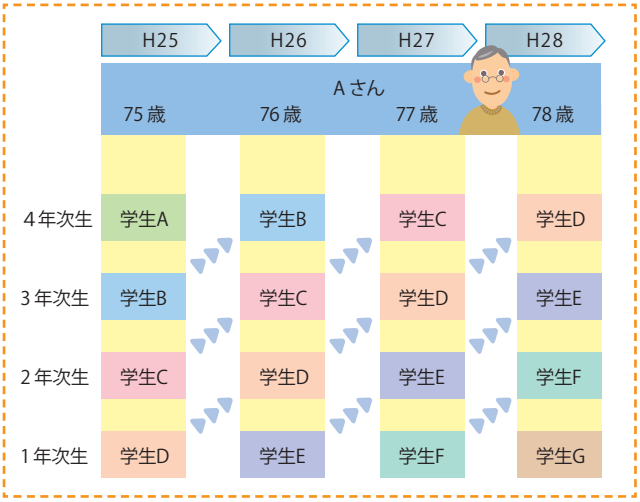
カリキュラム改革・地域志向の人材育成
家庭訪問による高齢者の健康状態データの蓄積と解析

3 学部教育のカリキュラム改革 －より地域へ貢献する大学へ－

現行の看護学実習は、急性期医療の場を中心に展開されているため、学生が在学中に一人の対象者を長期間かけて看護するという視点が育ちにくい。この限界を打破するため、カリキュラムを改正して予防的家庭訪問実習を創設し、自宅で生活する高齢者を学生が４年間を通して担当し、継続的に訪問する過程で対象者への理解を深め、ニーズに合わせた支援ができることを目指す。

本学のカリキュラムは４年間で看護師を教育するプログラムである。６段階の臨地実習により看護実践能力の習得を図るが、これに、平成27年度から予防的家庭訪問実習を本格的に導入し、地域を志向したカリキュラムに変革する。平成26年度は試行的に訪問実習を行うと同時にカリキュラムの改革を行った。（平成27年４月実施）





予防的家庭訪問実習では、１年生から４年生のすべての学生が、異なる学年で構成されたグループに分かれる。学生は学年を超えたグループメンバーと共同作業を行うこととなり、他の学年との交流や意見交換が可能となる。

本大学の健康科学と看護学の教員がペアになり各グループの指導にあたる。各教員ペアは２グループを担当し、各訪問の前後にアドバイスをすると共に、初回時および、その年度の最後には学生の訪問に同行する。

定期的に実習合同会議を開催し、教員同士の相互交流も図る。

4 地（知）の拠点（COC）整備事業の評価

対象となる高齢者・地域・学生と大学の各々の評価指標を設定している。事業開始二年目にあたる平成26年度は、下記の指標を立て事業を実施した。

対　象	課　　題	対策（本事業）	効果（アウトカム）
高　　齢　　者	・加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化 ・認知症および孤独死の増加	・看護学生の訪問受入で定期的な会話と役割感を持つ ・定期的健康管理 ・近所の健康教室等へ参加	・孤立化緩和（外出回数の増加、閉じこもり・うつ傾向減少） ・ＱＯＬの維持・向上 ・救急搬送・受診回数の減少 ・入院・入所の日数や回数の減少 ・介護保険認定状況の改善
地　　域 野津原地区 富士見が丘団地	・孤立した高齢者を見守る自治会役員等の負担感 ・アウトリーチするマンパワー不足 ・地域の衰退	・孤立しがちな高齢者を訪問するマンパワー確保 ・学生が定期的に地域に入ることで活力が得られる	・孤立しがちな高齢者にアウトリーチできる ・学生の訪問により高齢者や地域の活性化・再生、まちづくりへ発展 ・介護予防のイベントやサービスへ参加者増加
学　生　・　大　学	・短期間の看護学実習・対象者を生活の場で長期間支援する体験が難しいカリキュラム ・家庭訪問する機会・期間が限られている教育・限定的な教授方法	・4年間通して同一対象者をフォローし、健康状態を見ていく実習体験 ・カリキュラム改革	<学生> ・高齢者への継続的関わりで、家庭訪問・コミュニケーション・健康教育・アセスメント・ケアマネジメント等技術の向上 ・予防的視点と問題解決思考が訓練される <大学> ・教育方法の改善・改革 ・地域高齢者の健康状態経年把握

II

大分県立看護科学大学
地(知)の拠点(COC)
整備事業の推進組織体制

1 大分県立看護科学大学 COC 事業推進組織体制

1 学内の事業推進体制(９頁の組織図参照)

❶ COCプロジェクト事務局

COC事業の運営を担う。事業計画・事業評価計画を立案するなど、COC事業の中心的役割を果たす。

各部門(実務・教育・事業評価）を設け、連携して、事業を遂行する。

❷ 看護研究交流センター

COCプロジェクト事務局を設置し、地（知）の拠点（ＣＯＣ）整備事業の実務を担当する。地域や連携自治体の窓口として、野津原地区・富士見が丘団地の地域組織や、協力者との連携を図る。また、物品の購入・管理、記録の管理などを行う。学生に対しては、家庭訪問マナーの指導担当とともに、マナーオリエンテーションを実施し、学生の教育・指導をサポートする。

事業評価に関しては、事業評価部門の研究室や地域と連携し事業を遂行する。

❸ 実務部門

①学生グループ検討担当

学生や教員のグループ編成を行う。

②実習記録管理（電子化）担当

実習記録を電子化し、円滑に実習が推進できるように図る。

❹ 教育部門

①単位認定担当：８研究室

イ. 学生の実習評価・単位認定

各学年の学生について各々２つの研究室が、担当教員による評価・学生の記録等をもとに評価・単位認定を行う。

ロ. 実習に関する担当学年の教育

本実習に関係する講義、演習、オリエンテーション等を検討する。

ハ. 実習全体の評価

実習に関する教育効果等を評価する。

②実習グループ担当

イ. 指導体制

教員２名（人間科学系・看護学系）が２つの学生グループとその協力者を担当し、指導にあたる。

ロ. 家庭訪問

初回訪問は同行し、学生指導を行う。

ハ. 実習に関する相談・連絡

学生および協力者に問題等が発生した場合は担当教員間で話し合い、必要に応じて、単位認定研究室代表者に連絡・相談する。また、地域の実習関係者への相談等が必要な場合は、看護研究交流センターへ連絡する。

二. 緊急時の対応や事業報告会（地域交流会）の準備・指導

ホ. 評価

学生の訪問日数（回数）、訪問内容、態度、記録、レポート等に関する評価を年度末に行い、評価表に入力する。

③家庭訪問マナーに関する指導担当

学生オリエンテーションでマナーに関する指導を実施する。

❺ 事業評価部門

地域志向性の高い教育・研究を進めるため、予防的家庭訪問実習の協力者・学生・地域に対する事業の評価指標と調査方法を検討する。事業評価に関する学内の役割分担を行う。

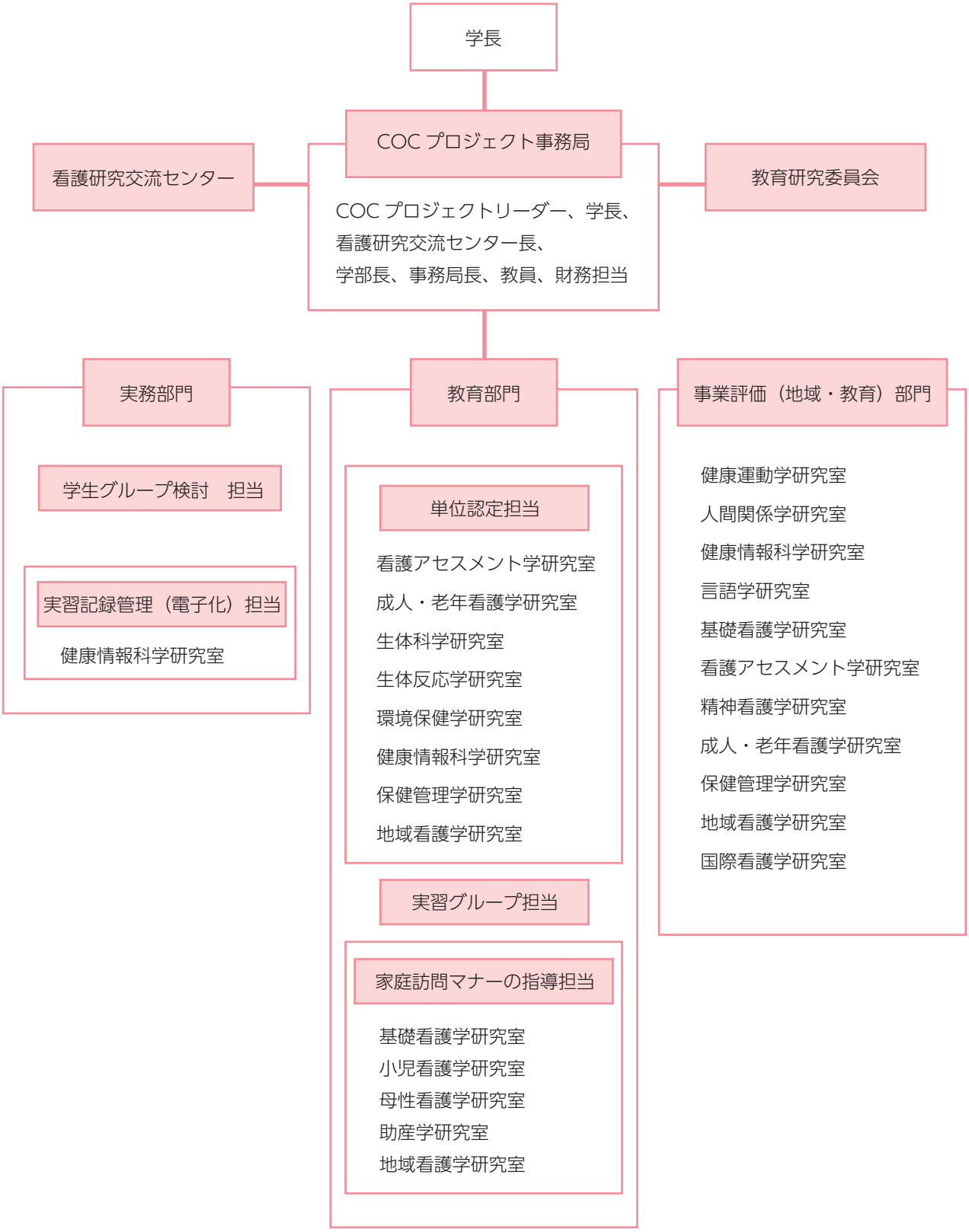
2 事業推進会議

大学と関係者によって構成された事業推進会議を年３回開催し、事業の計画、及び、中間評価、 事業評価などを行う。（メンバーは10頁に記載）

3 事業報告会（地域交流会）

本実習の成果や課題を地域の方と共有するため、年１回、地域で事業報告会（地域交流会）を開催する。
報告会では、学生が家庭訪問での学びを報告し、自立して生活しつづけるための対策などを提案する。また、必要に応じて、保健・医療・福祉のトピックスなどの健康教育を実施する。学生の報告や提案内容等をふまえて、地域の方々と学生、教員、関係者で意見交換等を行い、交流を深める。

2 COC 推進プロジェクト学内組織体制図



3 大分県立看護科学大学 COC 事業推進会議関係者

平成 26 年 6 月 10 日現在

野津原地区関係	
野津原地区自治委員連絡協議会	会長
野津原地区社会福祉協議会	会長
野津原地区民生児童委員協議会	会長
野津原地区地域包括支援センター	センター長
大分市市民部野津原支所	支所長
大分市保健所健康課西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地関係	
富士見が丘連合自治会	会長
横瀬地区社会福祉協議会	会長
横瀬地区民生児童委員協議会	会長
稙田西地区地域包括支援センター	センター長
大分市市民部	参事兼稙田支所長
大分市保健所西部保健福祉センター	参事補
大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師
大分郡市医師会	
大分郡市医師会	副会長
大分県看護協会	
大分県看護協会	副会長
大分県国民健康保険団体連合会	
事業課	保健事業班主幹（総括）
大分市	
長寿福祉課	課長
長寿福祉課	参事補
保健所健康課	課長
保健所健康課	参事
大分県	
福祉保健部福祉保健企画課	地域保健・情報班主幹
福祉保健部医療政策課	看護班主幹（総括）
福祉保健部高齢者福祉課	地域包括ケア推進班主幹

III

大分県立看護科学大学
地(知)の拠点(COC)
整備事業の実施報告

地（知）の拠点（COC）整備事業報告書

大分県立看護科学大学

1 平成 26 年度事業経過報告

本年度は前年度の試行的な家庭訪問実習を経て、学生33名が協力者８名のもとに継続的に家庭訪問実習を行った。また、平成27年度からの本格実施に向けて、大学と地域が連携して準備を進めた。

平成26年 4月 9日	全学生COC予防的家庭訪問実習オリエンテーション実施 履修希望者募集
4月22日	第１回単位認定研究室会議
4月23日	第１回看護系全体会議 第１回COC学生グループ検討SG・学内窓口担当者合同会議
4月15日	COC事業　自由科目「予防的家庭訪問実習」履修学生33名決定
5月	自由科目「予防的家庭訪問実習」協力者8名決定 （野津原地区４名、富士見が丘団地４名）
5月 2日	第１回COCプロジェクト事務局会議
5月 8日	第１回COC予防的家庭訪問実習マナーに関する担当者会議
5月14日	第２回COC単位認定研究室会議
5月15日	第１回COC予防的家庭訪問実習学内検討会
5月16日	野津原地区校区自治会長会議
5月19日	第２回COC学生グループ検討SG会議
5月27日	第２回COC予防的家庭訪問実習マナーに関する担当者会議
5月28日	第２回COCプロジェクト事務局会議
6月 3日	第１回COC事業推進会議幹事会
6月 4日	第３回COCプロジェクト事務局会議
6月10日	第１回COC事業推進会議
6月11日	第３回COC事業評価代表者会議
6月27日	第４回COC事業評価代表者会議 第２回COC学内窓口担当者会議
6月上旬~中旬	予防的家庭訪問実習の説明用チラシ配布（野津原地区）
7月 上旬	平成26年度予防的家庭訪問実習協力者８名事前訪問、同意書伺い
7月11日	第４回COCプロジェクト事務局会議
7月14日	COC「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」 学生オリエンテーション
7月15日	第３回COC予防的家庭訪問実習マナーに関する担当者会議
7月24日	第５回COC事業評価代表者会議
7月30日	第１回COC事業評価会議 第２回看護系全体会議
7月下旬~8月	予防的家庭訪問実習、初回訪問実施
8月 8日	第３回COC学生グループ検討SG会議
8月11日	第３回COC学内窓口担当者会議
9月24日	第２回COC事業推進会議幹事会

10月 上旬	平成27年度予防的家庭訪問実習協力者募集用チラシ全戸配布 （野津原地区、富士見が丘団地）
10月14日	第２回COC事業推進会議
10月15日	第２回COC予防的家庭訪問実習学内検討会 第５回COCプロジェクト事務局会議
10月21日	第１回富士見が丘団地地域連絡会議
10月28日	第１回野津原地区地域連絡会議
11月13日~22日	エスノグラフィーの開発者であるKathy Magilvy先生来日 平成26年度予防的家庭訪問実習協力者宅訪問
11月26日	第２回野津原地区地域連絡会議
11月~12月	サロンや健康教室、地域の催し物に出向き平成27年度予防的家庭訪問実習協力者を募る （野津原地区、富士見が丘団地）
12月	平成27年度予防的家庭訪問実習協力者80名決定
12月15日	第４回COC学内窓口担当者会議
12月17日	COC「看護学生による予防的家庭訪問実習を通したまちづくり事業」 学生オリエンテーション 第３回看護系全体会議
平成27年1月	平成26年度予防的家庭訪問実習、学生による訪問終了
1月17日	第６回COCプロジェクト事務局会議
1月21日	平成26年度野津原地区事業報告会（地域交流会）
1月28日	平成26年度富士見が丘団地事業報告会（地域交流会）
2月 3日	第２回富士見が丘団地地域連絡会議 第３回野津原地区地域連絡会議
2月 4日	第７回COCプロジェクト事務局会議
2月 6日	第３回COC事業推進会議幹事会
2月17日	第３回COC事業推進会議
2月24日	第５回COC学内窓口担当者会議
2月26日	第４回COC予防的家庭訪問実習マナーに関する担当者会議
平成26年12月~ 平成27年 3月	平成27年度予防的家庭訪問実習協力者80名事前訪問、同意書伺い
3月11日	第８回COCプロジェクト事務局会議
3月19日	第３回COC予防的家庭訪問実習学内検討会

2 平成 26 年度事業推進会議

1 平成 26 年度　第 1 回事業推進会議

1 日時：平成26年6月10日（火）14：00～15：30
2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室
3 出席者：34名
4 議事
❶ 平成26年度事業計画(案)について
❷ 事業評価（基本チェックリスト等）について
・市民健診で使用している基本チェックリストは短期よりも長期評価向きとのアドバイスを受ける。

❸ 協議内容
・事業報告会（地域交流会）には、家庭訪問実習の協力者（対象者）が参加した方がよい。
・家庭訪問実習協力者（対象者）の意見・感想をアンケートで募るとよい。
・家庭訪問実習協力者（対象者）に、「学生が来てくれて楽しいと思ってもらえる実習にしてほしい」と事業推進委員の地域関係者より要望あり。

2 第２回事業推進会議

1 日時：平成26年10月14日（火）14：00～15：30

2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室

3 出席者：40名

4 議題

❶平成26年度事業について

❷平成27年度事業計画(案)について

❸事業評価について

5 協議内容

❶平成27年度の協力者数が、募集定員に達しない場合の対応案

・２つの地域の自治会に依頼文を出し、自治会長から地域の方へ説明していただく。

・今年度と同様に保健師や地域包括支援センター、民生委員に紹介していただく。

・地域のサロンや公民館にチラシかポスターを置き、グループのリーダーに説明する。

❷予防的家庭訪問実習についての意見

①地域住民の意見

・協力者募集のチラシを見たが、家に来るのが困るから協力出来ない。

・大人数で家に来られて迷惑だった。

・学生が来てくれて嬉しかったけど、何をしに来たのだろうかと思った。

・家庭訪問に協力しても、自分達にメリットを感じない。

②自治会からの意見

・現在、受け入れの良い方を紹介しているが、平成27年度目標の80名は困難だと思う。

・学生にはコミュニケーション能力を向上してほしい。

③平成27年度予防的家庭訪問実習の地域側の窓口について

・野津原地区は、野津原支所。担当部署は検討する。

・富士見が丘団地は、公民館事務長。

④平成27年度事業報告会について

・地区・校区毎に交流会を持つのはどうか。地域住民の興味を引き付けるようなPRを行う。
具体的なプランは、今後検討していく。

⑤事業評価について

・アンケート項目が多い。

・重複質問がある。

・質問のねらいが不明な項目がある。

・郵送法は困難だと思う。

・アンケートの回答者には謝礼を検討する。
具体的な対処案は次回の事業推進会議に提案し検討する。

3 第３回事業推進会議

1 日時：平成27年2月17日（火）14：00～15：10

2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室

3 出席者：38名

4 議題

❶平成26年度事業実施報告会について

❷平成27年度事業実施計画(案)について

❸平成27年度事業評価計画(案)について

5 意見交換

❶事業報告会の開催時期について

・事業報告会はインフルエンザ等の流行性疾患のリスクを考え、開催時期や方法を検討したほうが良いのではないか。

❷協力者数が野津原地区と富士見が丘団地で差があることについて

・支障はない。辞退者が出た場合の協力者の追加募集は富士見が丘団地の方にお願いしたい。
連合自治会の協力を得ることで承認された。

❸事業評価の調査方法や調査内容について

・調査票は活用方法を検討する。

・事業報告会で調査する場合、訪問協力者と重複しない方法を検討する。

・学生による調査の仕方を統一する。例えば、個別目標の立て方、実施に関するガイドラインを作成する。

・評価する場合、市町村のスマイルチェックのデータと比較出来るといいが、市町村データとの連結が可能かどうか相談する。

・学生の介入による協力者の変化等効果測定の方法を検討する。

・サロン会員は元気な方が多いので、対象群として妥当かどうかは検討する必要がある。

3 平成 26 年度学内検討会

1 第 1 回 学内検討会

1 日時：平成26年5月15日（木）16：00～17：30
2 場所：大分県立看護科学大学 21講義室
3 出席者：学内教員
4 議題
❶ＣＯＣ学内組織体制について
❷予防的家庭訪問実習について
5 協議内容
❶予防的家庭訪問実習説明書・同意書について
・予防的家庭訪問実習説明書・同意書にある「看護援助を行う上で必要な診療録、看護記録等」の記載は本実習では該当しないため削除する。
❷健康教室の実施について
・健康教室は訪問実習の中で学生が考えたことを地域住民を対象にして実施するものである。
・実習開始すぐには実施困難であるが、長期的に実施することを視野に入れる。
❸対象者への説明について
・平成26年度は対象者8名なので、プロジェクトリーダーが看護研究交流センターの職員と挨拶に伺う予定。平成27年度は対象者が80名になるため今後検討する。

2 第 2 回 学内検討会

1 日時：平成26年10月15日（水）16：00～17:00
2 場所：大分県立看護科学大学 22講義室
3 出席者：学内教員 31名
4 議題
❶平成26年度事業について
・予防的家庭訪問実習の経過報告
・事業報告会（地域交流会）
❷平成27年度事業計画について
・平成27年度ＣＯＣプロジェクト学内組織体制
・平成27年度予防的家庭訪問実習
❸事業評価について
・事業評価の枠組み
・調査の時期・方法
5 協議内容
❶今年度ＣＯＣ実習の担当教員の意見
①日程調整が困難である。
②人間科学系と看護学系の教員でペアになっているが、9月以降看護系の教員が他の実習に行くため学内にいない。その時期の対応が人間科学系の教員には大変である。看護系の教員も他の実習に行きながらＣＯＣの実習を同時に行うのは大変である。
③学生の訪問目的が明確でないと、訪問しても身につかない。訪問を重ねると目的がわからなくなる学生もいるため、訪問後の学生指導は必要である。
④訪問時間が長くなるような場合には、教員の介入が必要である。
❷協力者の本音を聞いてもらうために、自治会役員などの地域の住民へのアプローチが必要。

3 第 3 回学内検討会

1 日時：平成27年3月19日（木）10：30～12：00
2 場所：大分県立看護科学大学 23講義室
3 出席者：学内教員 31名
　　学内事務員
4 議題
❶平成27年度予防的家庭訪問実習学生要項について
❷平成27年度予防的家庭訪問実習教員要項について
❸事業評価について
❹平成26年度予防的家庭訪問実習を経験して
5 協議内容
平成27年度予防的家庭訪問実習学生要項、平成27年度予防的家庭訪問実習教員要項について
出席者と意見を交換しながら内容を議論する。

4 平成 26 年度 自由科目「予防的家庭訪問実習」

1 訪問実習の目標

1. 在宅で生活する高齢者を生活者として全体像をとらえることができる
2. 高齢者とコミュニケーションを取ることができる
3. 高齢者の健康・生活機能の在り様を観察・アセスメントすることができる
4. 必要な支援を考え、必要に応じて情報提供やケアを行うことができる
5. 訪問実習で得られた情報や訪問結果を適切に記録することができる

2 予防的家庭訪問実習学生オリエンテーション

1. 日時：平成26年7月14日（月）16：20～17：50
2. 場所：大分県立看護科学大学 地域看護実習室
3. 出席者：平成26年度自由科目ＣＯＣ実習履修学生33名、学内窓口担当教員、ＣＯＣ単位認定看護系研究室代表者、ＣＯＣ訪問マナー担当教員、看護研究交流センター職員
4. 内容
   a. 実習目標について
   b. 実習の流れ・スケジュール・グループ編成について
   c. 予防的家庭訪問実習マナーについて
   ・事前にワークシートを作成し学生に配布する。
   ・オリエンテーション当日は訪問実習を行う時の服装で参加する。
   ・1つのグループがロールプレイを実施し、意見交換する。

3 概要

1. 家庭訪問協力者（対象者）数
   野津原地区4名（男性2名、女性2名）
   富士見が丘団地4名（男性1名、女性3名）　　合計８名
2. 自由科目 予防的家庭訪問実習　履修学生
   1年生…14名　2年生…6名　3年生…6名　4年生…7名　合計33名
3. 家庭訪問実施期間・回数
   平成26年7月～平成26年12月　　1～2か月に1回訪問する。
4. 家庭訪問協力者への依頼方法
   ❶民生委員や保健師等から紹介してもらう。
   ❷プロジェクトリーダーと看護研究交流センター職員が協力者宅へ事前に訪問し、実習の説明と協力依頼をする。
   ❸平成27年度以降は、野津原地区・富士見が丘団地の全世帯にチラシを配布し、協力者を募集する。

4 平成 26 年度予防的家庭訪問実習　実施状況

グループ別訪問実習実施日

グループ名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
A	7/31（木）			10 /1（水）		12/17（水）	
B		8/28（木）	9/10（水）		11/5（水）	12/24（水）	
C			9/10（水）	10 /1（水）	11/5（水）	12/17（水）	
D		8/8（金）	9/3（水）	10/15（水）	11/5（水）	12/12（金）	
E			9/4（木）	10/15（水）	11/26（水）		1/8（木）
F		8/5（火）				12/22（月）	
G	7/30（水）		9/3（水）	10/22（水）		12/10　（水）	
H		8/7（木）	9/17（水）	10/15（水）	11/19（水）		1/15（木）

1回目　2回目　3回目　4回目　5回目

5 平成 26 年度予防的家庭訪問実習　各グループの訪問実施状況

A グループ

協力者：野津原地区在住、70代後半、女性
合計訪問回数：3回

1回目訪問

日時：平成26年7月31日（木）　10：00
訪問人数：学生3名、教員2名
感想（一部抜粋）

- 初めての家庭訪問だったので最初は緊張したが、協力者の方が明るく元気で親しみやすかったので、すぐに緊張もほぐれた。
- 早くに祖母を亡くしたので、「孫みたい」と言われて嬉しかった。
- 今後の家庭訪問を通して、協力者の方が不安に思っていることを聞いたり、改善が必要なことを見つけて、協力者が行動を起こすためのきっかけを与えられたらと思った（1年生）。
- 協力者の方がどんな方なのか知りたいと思った。
- 協力者の方がとても元気に生活していると思った。
- もっと協力者の方のことを知りたいと思った（3年生）。
- たくさんの生きがいを持っており、地域の方と交流しながら楽しく生活している様子を見ることができた（4年生）。

2回目訪問

日時：平成26年10月1日（水）　15：00
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）

- 2回目だったので前回よりは協力者の方と話すことができた。
- 近所づきあいが良好で、何かあった時には頼れる環境があるので、協力者の方は楽しく過ごせているのではないかと思った。
- 足の調子が再び悪くなってしまった場合、参加できる活動が減少してしまうと思った。それにより、人と関わる時間が減少し、協力者のＱＯＬが大幅に低下してしまうのではないかと感じた（1年生）。

3回目訪問

日時：平成26年12月17日（水）　16：30
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）

- 血圧が高いことが気になった。今回1回だけの測定だったので、普段の値と比べることができなかった。もう少し早くからバイタルを測定していれば比較できたと思った。
- 自分にとっては2回目の訪問だったが、協力者の方には初めての訪問だと思われた。もっと間隔を空けずに訪問すれば良かったと思った。
- 協力者の全体像を捉えるためには、普段の病院の受診状況や、既往歴なども知っておく必要があると感じた（3年生）。

B グループ

協力者：野津原地区在住、80代前半、男性
合計訪問回数：4回

1回目訪問

日時：平成26年8月28日（木）　10：30
訪問人数：学生5名、教員2名
感想（一部抜粋）

・不安や緊張もあったが訪問が楽しみ。
・協力者の方に合わせたコミュニケーションができなかった。初対面で緊張していて、協力者の方に合わせて大きな声で話すことなどの気配りをすることができなかった。
・協力者の方から多くの話をしていただいたが、自分から積極的に質問したり、話しかけたりすることができなかった。次回は自分から積極的にコミュニケーションをとっていきたい。
・訪問する時間は短いが、この短い時間で私たちができることを精一杯取り組み、協力者の方に充実した時間を提供したいと思った。
・訪問の目的の一つとして、協力者の話し相手になることが大切だと思った。
・協力者が一人暮らしであることは、変えることができないが、さみしいという状況は、協力者とお話をしていく中で変えることができるのではないかと思った。
・協力者の方との会話中に、知らない用語がたくさん出てきた。しっかりと知識を身に付けなければいけないと思った。
・高齢者の方は私たちの何倍も長く人生を歩んでいるので、高齢者の方の話を聞くことは大事で、高齢者の方から学ぶことがたくさんあると思った。
・学生が、協力者の方の好きなことに興味を持ち、共通の話題を見つけることは、高齢者の方々とのコミュニケーションをとる際の引き出しになると思った。
・協力者の方を見ていて、自分の祖母や祖父を思い出した（1年生）。
・高齢での一人暮らしでは、身体機能が低下していることにいかに対処できるかが重要だと感じた（3年生）。

2回目訪問

日時：平成26年9月10日（水）　15：30
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）

・2回目の訪問は1回目の訪問より緊張しなかった。
・前回よりも対象者の方と面と向かって会話することが出来ていた。しかし、会話を通して信頼関係を築くという目的であったにもかかわらず、自分から話す事ができず、信頼関係を築くどころか、積極的にコミュニケーションを取ることができなかった。協力者の方の大切な時間をいただいている自覚と感謝の気持ちを持ち、自分から何か話をするということの重要性を感じた。
・協力者の方の言っていることが聞き取れなかったり、方言がわからなかったりした。その地域の方言をある程度知っておくべきだと思った（1年生）。
・訪問の最後に、「今日も楽しい話ができてよかった」と笑顔で言ってくれ、少しずつ信頼関係が築けていると感じた（4年生）。

3回目訪問

日時：平成26年11月5日（水）　14：30
訪問人数：学生4名

感想（一部抜粋）

・前回の訪問で協力者の話を聞いて「何を学んだか」を、協力者にきちんと伝えることが、協力者の方のやりがいにつながると感じた（1年生）。
・趣味が協力者の強みであり、生活の中で重要な存在になっているのではないかと思った。自分も協力者の趣味の知識を増やしたいと思った。
・協力者が少しでも訪問実習への自分の希望を言ってもらえる環境作りが必要だと思った（2年生）。
・ＡＤＬ維持にとっては、「段差をなくす」だけではなく、「段差を乗り越える」ことも必要であると感じた（4年生）。

４回目訪問

日時：平成26年12月24日（水）
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・協力者の方は自分自身の身体能力についてよく理解し、受け止めており、それに合わせて対策を取ることができていると思った。
・病院の実習で退院指導を行う際には、できるだけ自宅で生活する患者さんの事を考えて行っていた。しかし、今回の訪問で、寒い浴室での入浴など、自宅で生活する高齢者の危険について改めて考えさせられた。もっと入院生活と自宅での生活をつなげられるよう考えていきたい（3年生）。
・協力者の方の趣味に合わせた自己紹介シートを作成し持参したら、何度も見返して笑顔が見られた。学生と話すことにより、協力者のやりがいにつながればいいと思う（4年生）。

Ｃグループ

協力者：富士見が丘在住、70代後半、女性
合計訪問回数：4回

１回目訪問

日時：平成26年9月10日（水）　14：00
訪問人数：学生3名、教員1名
感想（一部抜粋）

・協力者の病気の辛さや、介護の大変さを聞いても、自分はわからないので悔しく感じた。これから病気のことを勉強する時は、症状だけではなく、治療のための薬の影響も学ぼうと思った。
・自分たちが訪問するだけでこんなに喜んでもらえたので、とても嬉しかった。
・上級生の動きを見て色々と学んでいきたい（1年生）。
・協力者は優しく、「また来てね。」と笑顔で言ってくれてこちらがほっこりした気持ちになった（２年生）。

２回目訪問

日時：平成26年10月1日（水）　15：30
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・高齢者が地域との交流が増えれば地域の高齢者の健康増進につながるのではないかと思った。しかし、地域のイベントは興味のある人だけに参加が限られ、大多数の人は参加していないことがわかった。
・1年生二人だけの訪問だったが、特に問題なく行えて良かった（1年生）。

3回目訪問

日時：平成26年11月5日（水）　13：30
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・事前にカンファレンスを行い、自分の中でやりたいことが明確に定まっていたので、家庭訪問実習をスムーズに行えた（2年生）。

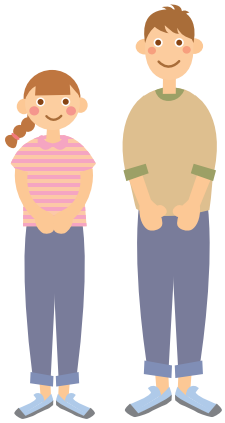
4回目訪問

日時：平成26年12月17日（水）　16：00
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・地域社会で行われている健康増進教室は、協力者にとって交流の場であり、様々な情報交換がされている場でもあることを知った。
・介護の苦労というものも感じた。地域との連携が重要であると思った（1年生）。
・高齢者が人の集まる場に出向くことは、脳の活性化や身体活動の増大に役立ち、さらに、その人にとっての“楽しみ”であったり、“人とのつながり”を感じられるものだと感じた。
・身体の柔軟性を見せてくださったり、嬉しそうにお話しされる様子を見て、協力者の方が教室に通ったり、近所の方とつながりを持つことを、今後も継続できるように支えたいと思った。そのためには、疾病の悪化予防をしたり、体力・筋力の維持・増進が大切だと思った（3年生）。

Dグループ

協力者：野津原地区在住、70代後半、男性
合計訪問回数：5回



1回目訪問

日時：平成26年8月8日（金）　14：00
訪問人数：学生3名、教員2名
感想（一部抜粋）

・今回は色々な話を聞くことができたが、自分から質問できなかったので、次回は、生活する中での工夫や役割などについて聞きたいと思う。
・初めての予防的家庭訪問実習のため緊張していたが、協力者の方から明るく自己紹介をしていただいて、緊張がすごく和らいだ。
・病院実習でかかわった高齢者の方はリハビリなどに消極的な人が多かったが、地域で生活する高齢者の方は健康意識の高い人が多いと感じた（1年生）。
・協力者の方は、地域の中で主導的な立場であり、人との関わりが多いということが、元気で明るく過ごせる秘訣ではないかと思った（3年生）。

2回目訪問

日時：平成26年9月3日（水）　16：00
訪問人数：学生4名
感想（一部抜粋）

・今回の家庭訪問は2回目だったため、前回の訪問時に比べて協力者の方の話を詳しく聞くことができた。
・協力者の方に話してもらうことが多かったので、次回はもっと自分たちが話せるようにしていきたい（1年生）。

・協力者の方は、妻もサロンに連れて行っていると話していた。もし、本人が行けなくなると妻も活動に参加できなくなり、人との交流が減ってしまうなど、妻にも様々な影響が出てくるのではないかと思った。
・持病が悪化し、日常生活の活動が制限されしまった場合、協力者の方の生きがいや自尊心までも損なわれてしまうのではないかと思った（3年生）。

3回目訪問

日時：平成26年10月15日（水）　16：00
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・協力者の方が今と同じように生活していけるために、何をすればいいかを考えるべきだと思った。
・持病が悪化して寝たきりにならないように、トレーニングをして筋力を高めることが大切だと感じた（1年生）。
・協力者の方は、人の役に立つことに喜びを見出し、それが生きがいになっていると感じた（4年生）。

4回目訪問

日時：日時：平成26年11月5日（水）　16：00
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・4年生が実習に参加できない時は、1年生が「高齢者の生活や予防について、看護の視点でどのように考えているか」を事前に確認しディスカッションした方が良いと思う。
・筋力トレーニングを紹介する時に絵や説明を添えた資料を作成したらわかりやすいと思った（4年生）。

5回目訪問

日時：平成26年12月12日（金）
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・5回目の訪問では、協力者の方の情報をかなり集めることができた。また、今回は自分なりに協力者の方の抱えている持病について調べ、対策を伝えることができたので良かった（1年生）。

E グループ

協力者：野津原地区在住、70代前半、女性
合計訪問回数：4回

1回目訪問

日時：平成26年9月4日（木）　14：30
訪問人数：学生4名、教員2名
感想（一部抜粋）

・自分から話すことがあまりできず、協力者の方の話にうなずいたり、返答するぐらいしかできなかった。最後に「一方的に話してごめんね。」と気を遣わせてしまう点もあったので、次回はお互い話ができるように、今回の反省点など考慮して臨もうと思った（1年生）。
・今回は初めての訪問だったので、協力者の方の話をあまり聞けなかったが、次回はもっと深くいろいろ聞きたいと思った（2年生）。

2回目訪問

日時：平成26年10月15日（水）　15：30
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）

・協力者が活動性を維持し、生きがいを感じる生活を送ることが出来るように、支援することが大切だと思った（4年生）。

3回目訪問

日時：平成26年11月26日（水）　15：30
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・前回の訪問の後に行ったカンファレンスで、「協力者のどのような情報が必要か」について話し合っていたため、今回は協力者から聞き取ることができて良かった（1年生)。

4回目訪問

日時：平成27年1月8日（木）
訪問人数：学生4名
感想（一部抜粋）

・前回の訪問から期間が空いてしまったが、色々と協力者の変化を感じることができた。
・生活面・健康面での前回訪問時との違いを、実際に見て感じることができた。
・初めての訪問時より協力者の方が私たちに色々と自身の事を話してくれるようになっていたし、質問もしてくれるようになっていた。同じ人が継続的に行くことによって心を開いてくれやすくなっていたのかなと思えたし、信頼関係が築けたのかなと思った。
・協力者の方が質問した時に、講義で学んだことを活かして答えることができるようになった（2年生）。
・一人暮らしの高齢者の金銭管理のサポートが必要と感じた（4年生）。

F グループ

協力者：富士見が丘在住、70代後半、女性
合計訪問回数：2回

1回目訪問

日時：平成26年8月5日（火）　15：30
訪問人数：学生4名、教員2名
感想（一部抜粋）

・アドバイスはできないけど、傾聴することで協力者も救われることがあると思う。
・協力者が私達に何でも気を遣わずに話すことができるくらいの関係性を築けるよう努力したい。
・一人暮らしなので何かあった時に大変なのではないかと思ったが、定期的に民生委員から電話があり、健康状態の確認をしているので、少し安心した（1年生）。
・自分と4年生の先輩の協力者への接し方はかなり違った。こういう時はこんな風に受け答えをすればいいなということがわかってとても勉強になった（2年生）。
・穏やかな声のトーンやゆっくりしたスピードで話すと相手も落ち着いて話しやすくなるのだと思った（2年生）。
・可能な限り長く趣味を続けられるよう、協力者の健康を支援していきたいと思った（4年生）。

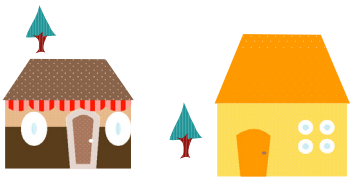
2回目訪問

日時：平成26年12月22日（月）　15：00
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）

・身体的には自宅で生活できる状況でも、気持ちの面で不安が大きいと、在宅での生活も辛いと思った。
・退院支援や地域とのつながりが大切だと改めて感じた（4年生）。

G グループ

協力者：富士見が丘在住、80代後半、男性
合計訪問回数：4回



1回目訪問

日時：日時：平成26年7月30日（水）　14：00
訪問人数：学生2名、教員2名
感想（一部抜粋）

・現在の協力者の生活は、自身の健康状態や精神状態によるものが大きいと思った。
・訪問前にグループで目標や課題の共有をし、インタビューの内容を組み立てていく方が良いと思った（2年生）。

2回目訪問

日時：平成26年9月3日（水）　14：00
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）

・協力者と協力者の妻、それぞれに合った距離と声のトーンで話している先輩の姿を見ることができた。
・先輩のように声のトーンに変化をもたせられなかった。
・協力者の言葉を繰り返し、話しやすい環境を作ることができた。

・その場でよいアドバイスがひらめかなかった（1年生）。
・ＣＯＣの訪問が交流の一つとなっているため、これをきっかけに他にも交流を広げていけるといいと思った（4年生）。

３回目訪問

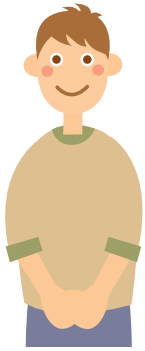
日時：平成26年10月22日（水）　14：00
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・今回はコミュニケーションはとれていたと思う。大学の講義でアセスメントについて少しずつ学んでいるため、次回以降もアセスメントしていきたい（1年生）。
・行動範囲や交友関係は年齢を重ねるごとに狭くなっていく。その原因は、本人の加齢や健康状態だけではなく、周囲の人（妻や兄弟）の年齢や健康状態、社会制度などが大きく影響していることを改めて実感した（2年生）。

４回目訪問

日時：平成26年12月10日（水）　14：00
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）
・今は協力者の方の現状を理解するだけで大変だが、来年は協力者の方の現状に対するアドバイスができるようにしていきたい（1年生）。

Ｈグループ

協力者：富士見が丘在住、80代前半、女性
合計訪問回数：5回



１回目訪問

日時：平成26年8月7日（木）　10：30
訪問人数：学生4名、教員2名
感想（一部抜粋）
・自分ははじめての家庭訪問だった。先生や先輩が話を進めてくれていたが、自分から協力者の情報を聞くことができなかった。
・協力者が話してくださったことをしっかりと覚えておくことが大切で、協力者の事をよく知りたいという気持ちが大事だと思った。
・次の訪問はもっと積極的に質問できるように頑張っていきたい（1年生）。
・緊張して積極的になることができなかった。
・次回訪問させていただいた時には、握力計を用いたり、関節可動域について知ることができればよいと感じた。そのためにも、80代女性の平均値を知っておく必要があると思った（2年生）。
・様々な話を聞き、地域の高齢者の人生や生活の一部が見れて、すごく良かったなと感じた（3年生）。
・私たちの訪問を楽しみにしてくれており、今後も継続したかかわりができるようにしたい（4年生）。

２回目訪問

日時：平成26年9月17日（水）　15：30
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・今回は協力者の方から声をかけてくださったりして、少しは自分から話すこともできた。

・うなずいたり、笑顔で聞くなどして協力者の方が自分達に、たくさん話したいと思うような雰囲気を作るよう頑張った（1年生）。
・地域の行事や民生委員の訪問など地域ぐるみで高齢者をサポートしようという取り組みを知ることができた（2年生）。

3回目訪問

日時：平成26年10月15日（水）　15：00
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）
・自分から尋ねたり、話をふくらませることができたような気がする。
・次の訪問ではもっとコミュニケーションをとり、協力者をもっとよく理解したいと思った（1年生）。

4回目訪問

日時：平成26年11月19日（水）　14：00
訪問人数：学生2名
感想（一部抜粋）
・先輩がお薬手帳の薬の名前を確認している際、自分も話を止めてお薬手帳を見ていたが、自分が協力者と話をすれば良かったと思った（1年生）。

5回目訪問

日時：平成27年1月15日（木）　15：30
訪問人数：学生3名
感想（一部抜粋）
・協力者の施設での体験を聞いて、声のかけ方が大切であることに気付かされた（2年生）。

6 平成 26 年度予防的家庭訪問実習協力者の感想

平成26年度の予防的家庭訪問実習終了後に、教員と看護研究交流センターの職員が協力者（8名）を訪問し、協力して頂いたことへのお礼を伝え、本実習の感想をうかがった。

1 今回、実習に協力して良かったこと

- 若い人と会話して笑うことが増えてよかった。
- ノートに書き綴っている面白い話を聞いてくれる人ができてよかった。
- 学生に同郷の人がいて話が合う。嬉しい。
- 1年生がとても気が利く。
- 息子がとにかく喜んでくれている。
- 若い子が来てくれるのは嬉しい。
- 和やかに話ができるだけでもいい。
- 人が訪ねてくれることはよいこと。こっちも助かっている。
- 孫が来たようで嬉しい。
- 若い人との交流は必要な事なので、この実習はとてもよい。
- 若い人に聞かせたいことが多いので、来てくれるのは嬉しい。
- 4年生が立派。下級生の見本となっている。

2 今回、実習に協力して困ったこと

- なし。
- 学生が話さない。4年生は話すけど、他の人は話さない。実習が役に立っているのかと思う。
- 学生の声が小さい。高齢者は聞き取りにくいので、相手に伝わるようにはっきりと話してほしい。

3 学生の言葉遣いや態度で気になる点

- なし。
- 言葉遣いや態度も立派、きちんとしている。

4 平成27年度もこの実習に協力して頂けるか

はい・・・８人

いいえ・・・0人

5 大学への要望

- 学校で開催される催しものに参加したいので教えてほしい。
- （協力者に対する）大学側の要望も遠慮なく言ってほしい。
- どんなことを学びたいのか、学生から聞きたい。

5 コロラド大学 名誉教授 Kathy Magilvy 博士 コンサルテーション

1 開催日時：平成26年11月14日（金） 13：00～16：00

2 場所：大分県立看護科学大学中会議室

3 出席者：Kathy Magilvy博士
学長
国際交流委員会：シャーリー、桑野、石川（華）
地域看護学研究室：佐藤（玉）、岡元
看護研究交流センター：福田、今池、板井、巻野

4 記録：福田

5 資料：Report on Community Development through Preventive Home Visits' Practice of Nursing Students' Project

6 説明内容：COC担当教員がMagilvy博士に実習目的と、実習が協力者、地域、学生に期待する効果について説明した。

7 アドバイス内容
・高齢者へのインタビューについて、「事業に参加して良かったことはありますか」、「本事業が役立ったことがありますか」等オープンな尋ね方をすること。
・高齢者への質的調査では参加観察は不要である。
・学生へのインタビューは、「実習を経験してどのように感じましたか」、「実習を通して何が変わりましたか」、「下級生に実習をどのようにすすめますか」、「下級生に伝える実習の注意点やアドバイスはありますか」等の尋ね方をすること。
・学生評価方法については、実習記録による評価、教員と学生のフォーカスグループインタビュー調査が望ましい。
・教員へのインタビューは、「COC実習と既存の実習はどのような違いがあるか？」、また、「それは、なぜ違うと思ったか」等の尋ね方にすること。
・卒業後調査（カリキュラム評価）として、保健師を目指した人数、在宅看護や老年看護に就職した人数を検証すること。

8 予防的家庭訪問実習同行

予防的家庭訪問実習に同行し、協力者宅へ訪問

高齢者宅訪ね 健康チェック

看護科学大、来年度から本格化

県立看護科学大学（村嶋幸代学長、大分市廻栖野）は来年度から「看護学生による予防的家庭訪問実習」を通した地域のまちづくり事業」を本格的に始める。外出の機会が減る高齢者は、地域との関わりが薄れて孤立する恐れがある。学生たちは訪問を通じて健康問題を把握、地域とのつながりを強くして、高齢者の介護予防に取り組んでいく。

事業は高齢化が進む近くの野津原、富士見が丘地域のキャシー・マギルビー名誉教授が来県。学生の春山千裕さん（21）＝4年＝が担当している男性方の訪問に同行した。

教授は実習の内容にテスト訪問している学生の意見を反映させることや、学生同士の情報の共有をしていくことをアドバイス。「このような事業は素晴らしい。地域と大学が協力的になれるきっかけにもなる。継続して進めてほしい」と話した。（渋谷優子）

× × ×

県立看護科学大学は野津原、富士見が丘地域で、家庭訪問実習を受け入れる75歳以上の高齢者を募集している。1、2カ月に1度、学生2、3人が家を訪問する。締め切りは12月26日。申し込み、問い合わせは同大学看護研究交流センター（☎097・586・4346）へ。

介護予防へアドバイス 地域協力深める

男性方を訪問した春山さん（右端）とマギルビー名誉教授（左から2人目）＝大分市野津原

平成26年11月20日（木）大分合同新聞夕刊掲載

6 平成 26 年度事業報告会（地域交流会）

1 事業報告会（地域交流会）の目的

学生が家庭訪問の学びを地域の方に報告することによって、相互に実習の意義を理解する。また、学生が参加者の血圧や体力測定を行うことによって、参加者が健康づくりの機運を高める機会とする。

2 事業報告会（地域交流会）学生オリエンテーション

1. 日時：平成26年12月17日（水）16：30～18：00
2. 場所：大分県立看護科学大学 32講義室
3. 出席者：平成26年度自由科目予防的家庭訪問実習履修学生33名、担当教員、看護研究交流センター職員
4. 内容：
   ❶事業報告会（地域交流会）の目的・方法について
   ❷グループ毎に発表の準備、協力者に渡す事業報告会（地域交流会）の招待状の作成について

3 事業報告会（地域交流会）

1 野津原地区

❶日時：平成27年1月21日（水） 14：00～14：45

❷場所：野津原支所

❸出席者：合計36名

地域住民8名、野津原地区COC事業推進委員4名、学生10名、大学理事2名、教員7名、看護研究交流センター5名

❹内容

a.学長挨拶

b.参加者紹介

c.学生による発表『平成26年度予防的家庭訪問実習の学び』 （34頁の図を用いて）

❺時間：各グループ5分

❻発表グループ：A,B,D,Eグループの4つのグループ（19頁のグループと同様）

❼発表内容

・協力者の生活や健康に関する学び

・協力者が健康増進に向けて考えていることや取り組み

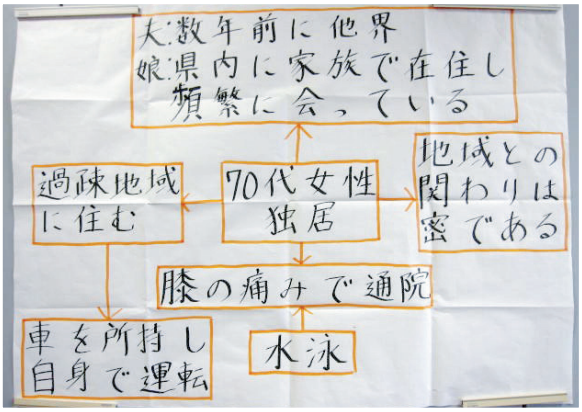
・協力者の方から教えて頂いた学び

・協力者の方への謝辞

❺発表時用いた図

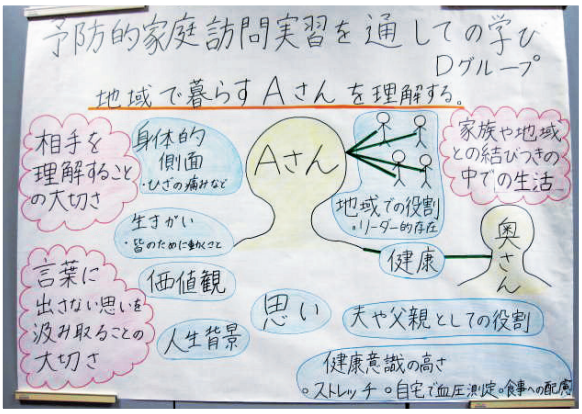
グループ毎に自由に作成

Aグループ

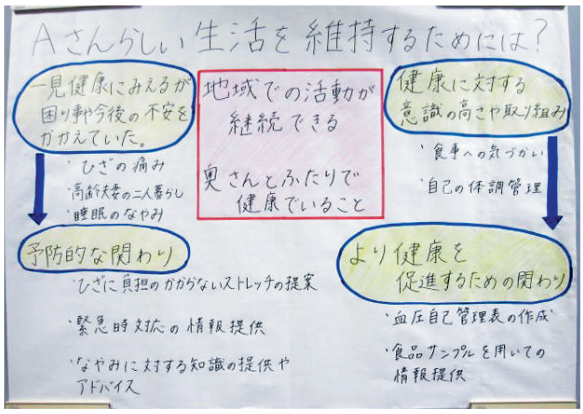


Bグループ

Dグループの1

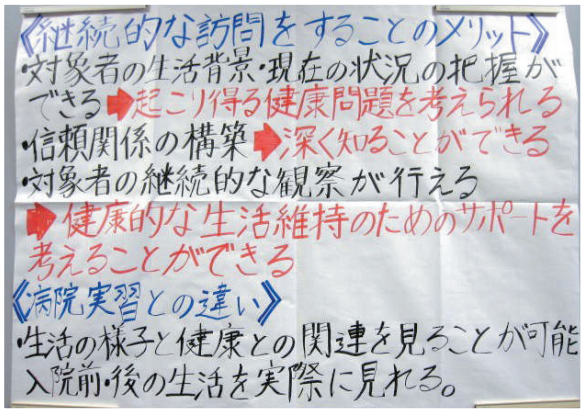


Dグループの2



Eグループの1

Eグループの2



❾参加者の感想

平成26年度予防的家庭訪問実習の協力者の意見

・学生さんが訪問に来るうちに孫と話すような気持ちになり楽しくなりました。
また、孫と話せると思うと本当に嬉しくて、嬉しくてこれからも是非、来てもらいたいです。

・私のところの学生さんは、県外の学生さんや１年生も２人いましたが、グループのチームワークが良くて、毎回、来てくれるのが楽しみでした。また来年度も家庭訪問実習をお引き受けしました。

・大学の先生からは「学生は大丈夫でしょうか？」と何度かご連絡頂きましたが、「しっかりされていて大丈夫です」とお答えしました。

・私は一人暮らしをしていますが、看護大学の学生さんが４人来てくれて、本当に良かったです。
是非、また続けて来てほしいです。

平成27年度予防的家庭訪問実習の協力者の意見

・4月からが楽しみです。学生さんの勉強の機会になれば良いです。

・孫に会うような気がします。楽しみです。

・長生きして学生さんと接することができて良かったと思います。学生さんの発表に「予防」、「地域との交流」、「入院前と後の生活」のような言葉がよく出てきました。どのように生活を選択し、広げるのかは生きながら選んでいます。趣味を活かしながら生きていきたいと思います。

野津原地区COC事業推進委員の意見

・学生さんの発表を聞いて、自分が気がつかないようなことに気がついていると思いました。福祉の考え方では、家の段差は危ないので一般的に無くすようにしますが、高齢者の健康維持を考えると 段差を越えられるようにすることも大切だと思いました。

・地域交流の行事は目新しいものではないのですが、協力者と学生さんが互いに交流できる楽しさがあると思いました。

・学生さんは病院に慣れているようでしたが、今日の発表を聞いて、学生さんは、地域の良さを、生活の場に訪問することで味わい、見て学んでいるように思いました。訪問を受けた方もそれを感じとっているように思います。地域の良さを学んだ皆さんに保健師になってもらいたいです。

・学生さんの発表で、地域の方の話をよく聴いている様子が分かりました。その人がどんな人か、良く聴いて知ることが大切です。その人の能力を損なわないよう、その人の目線で理解することが大切です。地域の生活を知ることは医療現場を知ると同時に非常に重要なことです。

・人と人との触れ合いや繋がりは健康にとって一番の薬です。学生さんが対象者の方と会って話をすることが健康に繋がるのだと思います。これからも継続してください。

2 富士見が丘団地

❶日時：平成27年1月28日 (水)14：30～15：00

❷場所：富士見が丘公民館

❸出席者：合計87名

地域住民42名、富士見が丘団地COC事業推進委員6名、学生24名、大学理事2名、教員7名

看護研究交流センター職員6名

❹内容

a.学長挨拶

b.参加者紹介

c.学生による発表『平成26年度予防的家庭訪問実習の学び』　(37頁の図を用いて)

❺時間：各グループ5分

❻グループ：C,F,G,Hグループの4つのグループ（19頁のグループと同様)

❼発表内容

・協力者の生活や健康に関する学び

・協力者が健康増進に向けて考えていることや取り組み

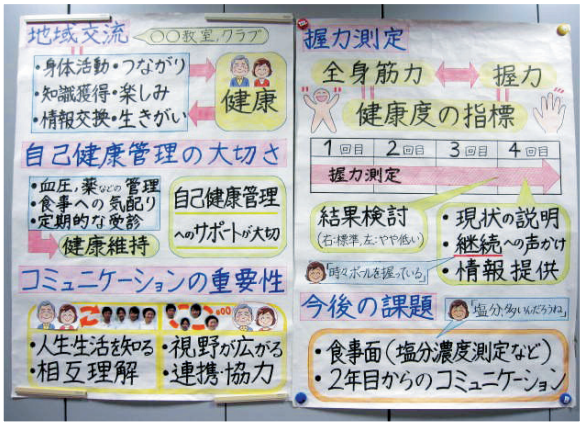
・協力者の方から教えて頂いた学び

・協力者の方への謝辞

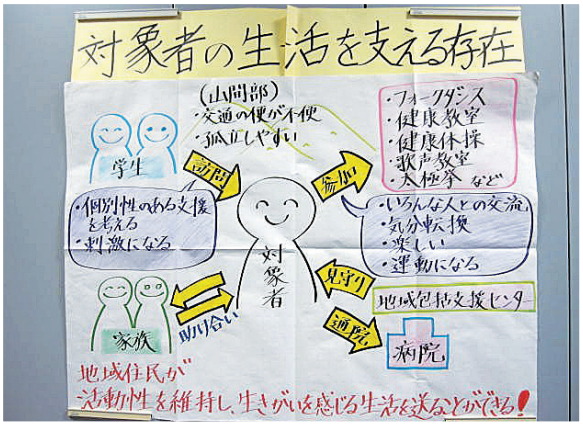
❺発表時用いた図

グループ毎に自由に作成

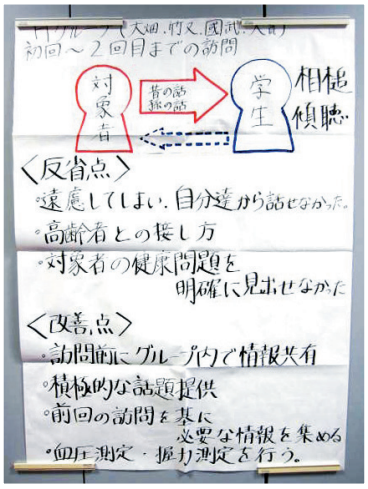
Cグループ



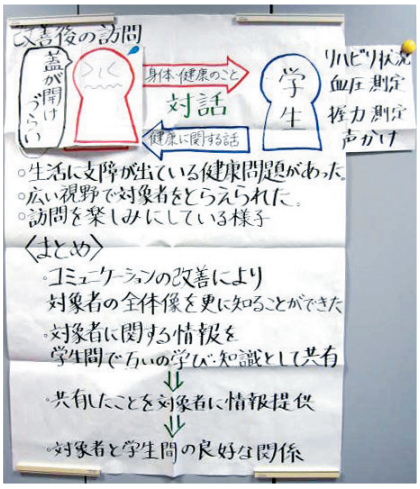
Fグループ



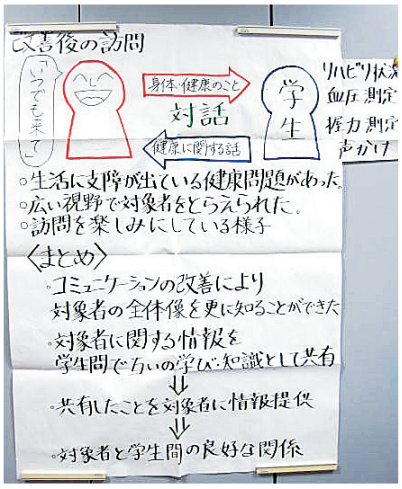
Hグループの1



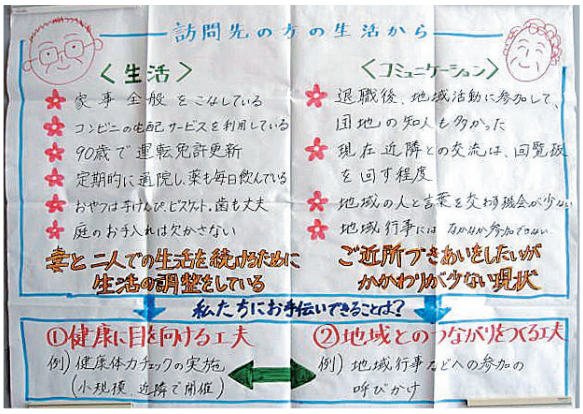
Hグループの2



Hグループの3



Gグループ



❻参加者の感想

平成26年度予防的家庭訪問実習の協力者の意見

・学生から色々と教えてもらいました。自分たちからもたくさんお話ができ、いいコミュニケーションが取れていると思います。楽しく過ごしているので、これからもよろしくお願いします。

富士見が丘COC事業推進委員

・握力の発表があったが、握力が体の筋力の代表というほど大事なものだとは思いませんでした。なぜ血圧と握力を測るのはわからなく、不思議だったので、とても参考になりました。
・自治会としては、この実習に期待しています。これからの高齢化社会に向けてお互い協力していきたいし、ぜひ長く続けてほしいと思います。
・富士見が丘団地も高齢化が進んでおり、これからどうやって高齢者を支えていかなければならないのかという大きな問題を抱えています。地域包括支援センターでは介護予防などの取り組みを行っていますが、今後、この実習も継続して行ってくれるということなので、協力してやっていけたらと思っています。
・保健師は、病気にならないこと、病気になっても重症化しないということを重視し、地域の推進委員の方の力を借りながら活動しています。この実習を通して、看護大の学生が地域の方ととても濃密に関わり、学生の頃から予防に視点を持ってもらえるということは、看護師や保健師として活動するにあたってとても大きな学びになると思います。今日の発表もとても素晴らしかった。私たちの後輩のためにもぜひ地域の方たちにお力を借りて、ますますいい事業になって いくといいと思います。
・学生の模造紙の作り方が素晴らしかったです。発表しながら模造紙をたえず前に送って行ったり、分かり易いように指で示してくれたりとか、そういったところを見たときに、ちゃんと実習に取り組んでくれているのだな、ちゃんと協力者さんと接してくれているのだなとすごく感じました。
・協力者とのコミュニケーションがうまく取れるようになったという発表を聞いて、今日聞きに来て良かったと思った。
・協力者さんは学生に見せる顔だけが一つの顔ではありません。もっともっと多くのことを、いろんな顔を見せてく れるようになると思うので、その点を広く捉えて頂きたいと思います。
・昨年の発表は声が小さく聞こえなかったが今日の発表は非常に大きな声で発表してくれたのでよくわかりました。自治会の役員をやっていると隣の方でもなかなか本音を話してくれません。しかし今日の話を聞いて、みなさん（学生）には本音を話してくれているのではないかと思います。今後この活動を広げながら、地域の活性化の起爆剤になるように頑張ってほしいです。期待しています。

大分県立看護科学大学教員

・学生は訪問に行く前にかなりの時間をかけて、真面目に準備をしてます。また、行くときはとても緊張しているが、帰ってきた時は笑顔になっています。私達教員が伝え聞く以上のことを学んで帰ってきていると思います。来年からはさらに多くの地域住民の人に協力してもらって、学生共々教員も成長していけたらと思っています。
・今日の４つの発表を聞いて、学生たちはとても多くのことを学んでいるのだと思い嬉しく感じましたし、地域で生活している方たちも加齢とともにいろんな問題が起こってくるのだなということも感じました。いろいろな方面から取り組まないといけないと思います。大分県立看護科学大学も、地域の人と協力しながら、よりより地域づくりに貢献していけたらと思います。平成27年度は80グループがこの実習に取り組みます。いろいろな混乱も起きるかもしれないと心配もしていますが、学びも多いと感じ、一生懸命取り組んでいきたいと思います。

7 学生の予防的家庭訪問実習を通しての学びと感想

予防的家庭訪問実習終了後に学生から提出されたレポートの内容は以下のとおりである。

1 各学年の学び

1 1年生

病院実習に行って受け持たせていただく方は疾病を持った方なので、今回の予防的家庭訪問実習で健康な実習協力者の方の健康観や要望に応じた支援ができるか悩みました。しかし、一人の実習協力者の方にグループ全員で向き合い、情報や気づき、考えを共有し合うことで私たち1年生は先輩から学ぶことも多くあり、学生間でも刺激し合い支え合いお互いを高めることができました。食生活や生活空間などは、実際に訪問することで話の内容からうかがえること以上の発見がありました。また、体調だけではなく生活している家や地域について知ることで実習協力者の方を生活者として理解しやすくなると思いました。

2 2年生

今回の予防的家庭訪問実習を通して、実習協力者の方とコミュニケーションをとり、家の様子など実際に見ることにより、地域の特性について知ることができました。地域交流について楽しそうに話す様子をみて、趣味や教室での交流によって、たくさんの人との関わりを深めることができ、その地域交流会が毎日の楽しみにとなり生きがいとなっているのではないかと考えました。趣味や地域交流は実習協力者の方の強みだと感じました。強みをいかすことが健康維持のためには欠かせない大きな存在になっていると学びました。

3 3年生

予防的家庭訪問実習では、これまでの病棟実習ではみることが出来なかった実習協力者の方の生活を実際にみることができました。また、実際に家や生活状況をみることにより、生活環境が与える影響や今後の生活について考えることができました。なかでも地域には元気に暮らしていくための社会資源がいくつもあり、それは地域で暮らしている人々にとって重要であることを学ぶことができました。実習協力者の方には訪問のたびに温かく迎えてくださり、とても嬉しく思います。来年度はグループメンバーと連携をはかり実習協力者の方の支援についてより深く考えていきたいと思います。

4 4年生

実習協力者の方の生活を知ることは、その地域の特性や他の地域住民の生活を考えることにもつながり、個人から地域に目を向けて、個人と地域に必要な支援を考えることができました。グループに1年生から4年生がいるため、それぞれ実習や講義で学んできた知識や技術を発揮し、先輩が後輩をサポートしたり後輩の素直な発想や意見に先輩が感心したりと各学年が刺激し合えた実習でした。予防的家庭訪問実習を通じて学生と関わる地域住民が増えることによって、地域で健康な生活を維持する人が増え、地域の活性化につながるのではないかと感じました。

2 学生の感想

1 1年生

❶大きな病気はしておらず、健康である高齢者の方と接する機会はあまりないため、コミュニケーションを通して、対象者の方の日常生活を知れてよかったと思いました。

❷高齢者の特徴や高齢者と私たちとの違いを知ることができましたし、先輩方にもアドバイスをいただいて、たくさんのことを学ぶことができた。看護を行う上でのコミュニケーションの大切さを改めて感じました。自分にとって、この予防的家庭訪問実習はとてもためになり、より良いものになりました。

❸学年が違うため、スケジュールを合わせることが大変でした。そのために、COCの活動に参加する人が限定され、仕事量にも差ができていました。来年はみんなが平等に活動に参加できるようなスケジュールにしたいです。

❹コミュニケーションの取り方を上級生から学ぶことができ、さらに他の実習でも活かせたことが良かったです。

2 2年生

❶病院実習とは違い、地域の特徴や対象者の家の様子を知ることができました。

❷学年縦割り（1～4年生が各1名ずつ計4名で一つのグループを構成）の活動がとても新鮮であり、刺激となりました。気付きが多かったです。4年生や3年生の実習態度やレポート、グループ内でのリーダーシップなど、とても参考になりました。また1年生の活動をみることで、僅かながら自分の成長を感じることができました。新しく加わるメンバーが、グループにスムーズに溶け込めるように工夫したいです。

❸初めて他の学年と深く交流することができ、テストや実習についての話を聞いたりすることができたことはとても良かったと思います。また、民生委員やデイケア、サロンといったことは、講義できくだけで具体的にどんなものか分からなかったのですが、実際に地域に暮らす高齢者の方と接することで、身をもって理解できたので良かったと思います。

❹1グループの学生が4人ということで、なかなか予定が合わず、訪問の日程を調整しにくかったです。発表会の準備が実習やテストと被ってしまい、準備を進めることが難しかったです。

3 3年生

❶看護技術に関しては、実技演習前の1年生に脈拍の取り方やマンシェットの巻き方などを教えたり4年生の手際の良さを観察して自分に吸収するなどしてメンバー間で互いに良い経験を得ることができました。

❷各学年での考えの違いや、参考になること、自分では思いつかなかったことなど様々な意見がでて、他学年の考えを共有することでより学びが深まってよかったです。

❸やる気のある人とない人では必修になった場合の訪問回数が大幅に違うのではないかと思います。

4 4年生

❶他学年との実習は初めてで、4年生としてアセスメント・実践の方法や知識・経験を1、3年生に伝えたり、メンバーの思いや考えを出しあえるようにするにはと悩むこともありましたが、1、3年生はとても素直で可愛く、様々なことを吸収しておりCOCが始まった頃との変化に驚きました。来年度は就職しますが病院に就職しても、患者さんが地域や家族との繋がりの中で生活していることや家庭で生活する意義を考え関わっていきたいです。

❷各学年のスケジュールがあるため、4人全員が集まり、訪問に行くことが難しかったため、COCのスケジュールを設けるとよりスムーズに行えると感じました。

❸大学の事業にこんなにも地域の方が協力してくださることに驚きました。いつも見えていないだけで、地域の方々に支えられているのだと実感することができました。4年生が動かないと物事が進まない場面が多いと感じました。しかし、4年生は1年中忙しく、就職や国家試験など将来がかかっている時期であることを考えると、来年度から本格的に行うにあたり、4年生への負担の軽減は必須であると思います。事業報告会やレポートなどは、国家試験まで1か月をきっている時期なので、4年は皆、精神的な負担が大きかったです。

❹来年度は、看護師として病院で働くため、今回の家庭訪問実習で学んだ高齢者の方の地域での生活や地域との関わりなどについても考えて、病院で患者と接していきたいです。

❺どの学年もテスト、講義、実習など予定が積み込まれているため、その中で、訪問やカンファレンスなどの全学年の都合を合わせることは難しいのではないかと感じました。全学年の中で、4年は講義などは少ないが、就活や卒論、国試など卒業に関わるものが多く、また、グループ内でリーダーシップをとっていかなければならないため、負担が大きかったです。1月末までCOCがあるため、国試勉強に集中できないのも考える必要があると思いました。来年度は4月から家庭訪問実習が始まるが、4年はゼミ、就活、総合実習など夏まで予定があるため、両立するのはすごく大変なのではないかと思う。

❻他学年と対象者と交流する事で、異なる見方を学ぶことができました。また、お互いに学校生活などの情報交換を行える場にもなり、よかったと思います。出来るだけ全員が参加できる日程で事業報告会（地域交流会）を行えたら良いと思いました。

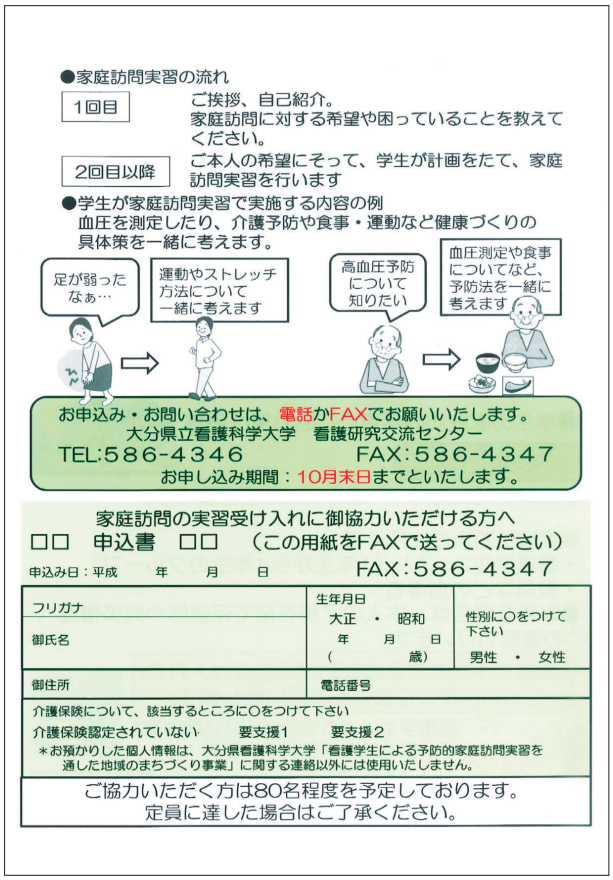
8 平成27年度予防的家庭訪問実習協力者募集のための活動報告

1 平成 27 年度予防的家庭訪問実習協力者の募集チラシ

下記のようなチラシを作成し、野津原・富士見が丘団地に全戸配布。
サロンや公民館などでの募集時にも持参し配布した。

表

裏



2 募集日時・場所・募集方法

看護研究交流センターの職員が以下の場所で合計19回募集活動を行った。

日　時	会　場	サロン名	看護研究交流センター担当職員
平成26年10月22日	富士見が丘公民館	はつらつサロン	今池、板井
10月30日	竹の内公民館	転倒・骨折予防のための健康づくり教室	板井、桜井（保健管理学）
11月 6日	野津原支所	サロン対抗スカット大会	巻野、板井、時松
11月12日	富士見ヶ丘公民館	民生委員会議	今池、時松

日　時	会　場	サロン名	看護研究交流センター担当職員
11月12日	富士見ヶ丘公民館	若葉会役員会議	今池
11月13日	野津原公民館	野津原ななせ大学	今池、巻野、時松、神崎
11月17日	野津原支所	フォークダンス	今池、神崎
11月17日	富士見ヶ丘公民館	若葉会集会	今池、時松
11月19日	新町公民館	新町区ふれあいサロン	今池、時松
11月19日	今市山荘	元気はつらつ教室	今池
11月19日	野津原支所	元気はつらつ教室	巻野、神崎
11月19日	今市TOSO屋（代表者宅）	石合原ふれあいサロン	今池、巻野
11月19日	野津原支所	地域包括主催のサロン	今池、神崎
11月25日	小屋鶴公民館（新）	ふれあいサロン新川	今池
11月26日	原村代表者宅	原村ふれあいサロン	今池、巻野、時松
12月 1日	太田公民館	太田いきいきサロン	今池、時松
12月 5日	入蔵公民館	ぼたん桜の会	今池、板井、時松
12月 8日	廻栖自治区コミュニティーセンター	廻栖ふれあいサロン	今池
12月 8日	野津原支所	グランドゴルフ	今池

3 募集に係る看護研究交流センター担当職員の感想

・実習に興味がある住民は多かったが、自ら参加の意志を表明する人は少く、自宅に知らない学生が訪ねてくることに抵抗を感じる人もいるようだった。
・地域住民にとって、居住地区の代表者は信頼できる人であり、大学職員よりも、地区の代表者から実習について説明を受けることが、実習に参加しようと思ったきっかけになったと思う。
・平成26年度の協力者などが周囲の人に声をかけてくれ、何度も大学の職員が説明に伺うことにより、住民と大学の職員が顔見知りになり、実習参加につながった時もあった。

4 協力者への事前訪問

・平成27年度の実習への協力を表明していただいた協力者（80名）を、事前に教員と看護研究交流センターの職員が訪問した。
・事前訪問では　①協力していただくことへのお礼　②予防的家庭訪問実習の概要説明　③実習協力同意書への署名依頼などを行った。事前訪問日数は延べ28日間。

資　料

地（知）の拠点（COC）整備事業報告書

大分県立看護科学大学

大分県立看護科学大学地(知)の拠点(COC)整備事業推進会議設置要綱

目 的

第１条　地（知）の拠点整備事業を大分県立看護科学大学（以下、「大学」という。）と地域、関係機関が連携して効果的に推進し、地域住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることによって、地域のまちづくりに寄与するとともに、大学として新たな取り組みによる質の高い看護教育効果を達成できるよう事業計画や進行管理、評価等を行うため事業推進会議（以下、「会議」という。）を設ける。

任 務

第２条　会議は、次に掲げる事項について検討協議する。

（１）事業推進計画に関すること。

（２）事業の中間評価、事業評価に関すること。

（３）その他事業の推進に関すること。

組 織

第３条　会議は、委員 30 人以内で組織する。

２ 委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

３ 会議に委員長及び副委員長を置く。

４ 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

職 務

第４条　委員長は、会議を招集し、その議長となる。

２ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

代 理

第５条　委員である者が会議に出席できない場合には、その会議当日のみ代理の者を委嘱された委員の代わり委員と認めるものとする。

幹事会

第６条　会議に、事業の推進に関する調査研究を行うため、幹事会を置く。

庶 務

第７条　会議の庶務は、大分県立看護科学大学が行う。

雑 則

第８条　この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則　この要綱は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

平成26年度地(知)の拠点(COC)整備事業推進会議　委員名簿

平成26年6月10日現在

区　分	氏　名	所属・組織等	役職等
野津原地区	佐藤　克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長
	分藤　靖弘	野津原地区社会福祉協議会	会長
	工藤富士隆	野津原地区民生児童委員協議会	会長
	川本　浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長
	天野　秀幸	大分市市民部野津原支所	支所長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課　西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	佐々倉幸義	富士見が丘連合自治会	会長
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会 横瀬地区民生児童委員協議会	事務局長
	野口　咲美	稙田西地区地域包括支援センター	センター長
	伊藤真由美	大分市市民部	参事兼稙田支所長
	木崎　美穂	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補
	竹上　浩二	富士見が丘連合自治会（オブザーバー）	福祉部長
	生野　信頼	富士見が丘公民館（オブザーバー）	事務長
	小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター（オブザーバー）	主任保健師
大分郡市医師会	岩波　栄逸	大分郡市医師会	副会長 （岩波内科クリニック院長）
大分県看護協会	甲斐久美子	大分県看護協会	副会長
大分県国民健康保険団体連合会	野尻　徹朗	大分県国民健康保険団体連合会事業課（オブザーバー）	課長
	大島　敦子	大分県国民健康保険団体連合会事業課	保健事業班主幹（総括）
大分市	十時　昌彦	大分市役所長寿福祉課	課長
	生野　裕子	大分市役所長寿福祉課	参事補
	軸丸千賀子	大分市保健所健康課	課長
	竹野美和子	大分市保健所健康課	参事
大分県	小林　由美	大分県福祉保健部福祉保健企画課	地域保健・情報班主幹
	加来　理香	大分県福祉保健部医療政策課	看護班主幹（総括）
	麻生　竜二	大分県福祉保健部高齢者福祉課	地域包括ケア推進班主幹
大分県立看護科学大学	村嶋　幸代		学長・理事長
	甲斐　倫明	看護研究交流センター・環境保健学研究室	研究科長・看護研究交流センター長・教授
	市瀬　孝道	生体反応学研究室	学部長・教授
	堤　　健一		事務局長
	朝倉　秦三	総務グループ	グループリーダー
	佐藤　玉枝	地域看護学研究室	COCプロジェクトリーダー・特任教授
	影山　隆之	精神看護学研究室	教授
	藤内　美保	看護アセスメント学研究室	教授
	小野　美喜	成人・老年看護学研究室	教授
事務局	福田　広美	看護研究交流センター	准教授
	今池　純子	看護研究交流センター	臨時助手
	板井　里枝	看護研究交流センター	臨時助手
	巻野　希和	看護研究交流センター	臨時助手
	時松　栄里	看護研究交流センター	臨時助手
	神崎　純子	看護研究交流センター	事務員

大分県立看護科学大学地(知)の拠点(COC)整備事業推進会議幹事会運営要領

目 的

幹事会は、大分県立看護科学大学地（知）の拠点整備事業推進会議設置要綱に基づき、地（知）の拠点整備事業（以下、「事業」という。）の効果的な推進について研究することを目的とする。

任 務

幹事会は、次に掲げる事項について研究を行う。
（1）事業の計画に関すること。
（2）事業の評価、見直しに関すること。
（3）その他事業の推進に関すること。

組 織

（1）幹事会は、幹事若干名で組織する。
（2）幹事会は、必要があると認められるときは、関係者に出席を求めて意見を聴くことができる。

庶 務

幹事会の庶務は、大分県立看護科学大学で行う。

そ の 他

この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は別に定める。

附則　この要綱は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

平成26年度地(知)の拠点(COC)整備事業幹事会メンバー

区　分	氏　名	所属・組織等	役　職
野津原地区	川本浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	野口咲美	稙田西地区地域包括支援センター	センター長
	木崎美穂	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補
	小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師
大分市	生野裕子	大分市役所長寿福祉課	参事補
大分県立看護科学大学	村嶋幸代		学長
	佐藤玉枝	地域看護学研究室	特任教授
事務局	福田広美	看護研究交流センター	准教授

平成26年度地(知)の拠点(COC)整備事業地域連絡会議メンバー

区　分	氏　名	所属・組織等	役　職
野津原地区	佐藤克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長
	天野秀幸	大分市市民部野津原支所	支所長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課　西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	佐々倉幸義	富士見が丘連合自治会	会長
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会 横瀬地区民生児童委員協議会	事務局長　富士見が丘担当
	生野信頼	富士見が丘公民館	事務長

資料

平成26年度地(知)の拠点(COC)整備事業報告書　編集委員

甲斐　倫明　(看護研究交流センター　センター長)
佐藤　玉枝　(COC プロジェクトリーダー)
市瀬　孝道　(COC プロジェクトメンバー)
朝倉　泰三　(課長補佐　総務グループリーダー)
福田　広美　(看護研究交流センター　主任教員)
今池　純子　(看護研究交流センター　臨時助手)
板井　里枝　(看護研究交流センター　臨時助手)
巻野　希和　(看護研究交流センター　臨時助手)
時松　栄里　(看護研究交流センター　臨時助手)
神崎　純子　(看護研究交流センター　事務員)

村嶋幸代学長と編集委員

本事業の採択および推進に尽力した甲斐倫明センター長、福田広美准教授、朝倉泰三課長補佐、時松栄里臨時助手は、異動により、その任を離れました。記して感謝します。

編集日　平成27年７月
発行日　平成27年８月31日
発行者　大分県立看護科学大学　看護研究交流センター
〒870-1201
大分県大分市大字廻栖野2944－９
TEL 097-586-4300（大学代表）
TEL 097-586-4346（看護研究交流センター直通）
FAX 097-586-4347
E-mail k-center@oita-nhs.ac.jp